

講義コード	11C0273900	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	加藤 宏	開講期	通年
科目名	社会学					加藤 宏		通年	
履修前提条件						備考			
授業の目的	社会学は近代社会と共に生まれた学問であり、近・現代社会の多様な社会問題と社会現象を分析してきた。前期では、まず社会学がどのような学問であるのか、その視点を現代的な社会現象の分析を通して紹介する。後期では、近代・現代社会とはどのような社会であるのかをテーマとし、その理解を深めるために、「国家」、「産業」、「労働」、「消費」、「環境」…といった項目を軸にして近代社会の展開と変容を講義する。								
到達目標	現代社会学の考え方を理解できる。「自我」、「アイデンティティ」、「ジェンダー」、「感情」、「家族」、「いじめ」といった項目を社会学の視点から説明できる。「近代社会」の成立と展開を説明できる。高度消費社会・高度情報化社会とその社会が抱える環境問題等の諸問題を理解し、現代の人間として社会への参加に寄与できる。								
授業外学修内容・ 授業外学修時間数	この科目では120時間以上の授業外学修を行なうこと。各回の授業で扱う項目について、レジュメを参考に、各回ごとに復習し、理解力を点検すること。また講義であげる参考文献や指定図書を積極的に読むこと。								
授業計画	【第1回】 講義ガイダンス 【第2回】 社会学とはどういう学問かー「いじめ」現象の社会学的理解 【第3回】 「自我」の社会性について 【第4回】 日常生活のなかのアイデンティティ管理 【第5回】 親密性の変容1 友達関係の変容 【第6回】 親密性の変容2 近代家族の誕生とその変容 【第7回】 ジェンダー1 ジェンダーとは何か 【第8回】 ジェンダー2 日本での職業における女性差別 【第9回】 日本の若者の「職業世界」1 学校から職業への移行 【第10回】 日本の若者の「職業世界」2 雇用流動化政策とフリーター問題 【第11回】 感情の社会学1ー感情の社会性 【第12回】 感情の社会学2ー感情労働 【第13回】 社会学の考え方1 ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 【第14回】 社会学の考え方2 デュルケム『自殺論』 【第15回】 前期まとめ 【第16回】 後期テーマの説明と前近代社会の共同体的性格 【第17回】 前近代社会の崩壊ー社会経済的变化とウェストファリア体制への移行 【第18回】 近代国家の誕生1 欧米の市民革命 【第19回】 近代国家の誕生2 日本の近代化 【第20回】 近代社会と産業化ー近代資本主義、産業革命、労働市場の形成 【第21回】 近代社会の普及と安定としての装置ー教育 【第22回】 近代社会の攪乱・統制・拡張ー労働者の管理、植民地 【第23回】 世界大戦前後ー近代国家と産業化の危機 【第24回】 現代社会の登場「豊かな社会」の成立ー50年代アメリカ 【第25回】 現代社会2 「豊かな社会」「高度消費社会」の仕組み 【第26回】 現代社会3 「豊かな社会」と限界問題ー公害から考える 【第27回】 現代社会4 「豊かな社会」と地球環境問題：温暖化 【第28回】 現代社会5 「豊かな社会」と南北問題 【第29回】 現代社会6 グローバル化 【第30回】 後期まとめ								
成績評価の方法	期末試験（80%）、授業への取り組み姿勢（20%）で評価する。								
フィードバックの内容									
教科書									
指定図書	『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』マックス・ヴェーバー（岩波書店）1989、『自殺論』エミール・デュルケム（中央公論社）1985、『社会学入門ー人間と社会の未来』見田宗介（岩波書店）2006、『ソシオロジカル・イマジネーション』鈴木・澤井編（八千代出版）1997、『社会学』長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志（有斐閣）2007								
参考書									
教員からのお知らせ									
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、授業終了後、次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応します。								
その他	教科書は使用しない。資料・レジュメ等を適宜配布する。また参考書は講義時に随時紹介する。								